

多彩な和文化 次世代へ

日本の伝統文化に触れる「出雲和文化まつり」が25日、出雲市浜町の出雲文化伝承館で始まった。日本舞踊や邦楽演奏のほか、そば打ち体験やお茶席などの催しがあり、訪れた市民らが和の文化を体感した。26日もある。

(吉田真人)

出雲



そば打ちを体験する参加者たち

そば打ちや茶席 市民体感

イベントは日本の伝統文化を次世代に継承しようとして、地元茶道や華道など各種文化団体でつくる出雲和文化交流会と、出雲文化伝承館などが毎年開いている。会場には、地元の華道団体による生け花展や陶芸や染織品を集めたクラフト展、グルメ屋台などのブースが設けられ、にぎわいを見せた。

そば打ち体験には親子連れら約20人が参加。県内外の出雲そば愛好家をつくる「出雲そばりえの会」(小村晃一会長)の5人が指導役を務め、「生地は均一の薄さにして」「切るときは厚くなりすぎないように」とアドバイスした。

参加者はバンダナを頭に巻き、助言を得ながら生地を延ばしたり、切ったりして約4人前を完成させた。出雲市立長浜小学校1年の原田芯君(7)は「出来上がったそばは少し太くなったけど、切るのが楽しかった。またやってみたい」と笑顔で話した。

(吉田真人)

2カ月早く 1万人到達

三江線おもてなしサロン 来年3月末で廃止となるJR三江線の利用者にとって、川本町観光協会が同町川本の石見川本駅前で運営する「三江線おもてなしサロン」の来場者が24日、1万人を突破



トピックス

松江

◆無事故目指し総決起大会 松江交通安全総決起大会がこのほど、同市殿町の県民会館であり、関係者300人が交通安全故のない社会の実現を誓った。

市や松江署などが1970年から毎年開催している。松浦正敬市長が「事故のない松江を実現したい」とあいさつ。川津民生児童委員協議会「嵩(だけ)の杜(もり)コース」がしっかりと、じっくり、みて「運転や、道路横断に取り組み「しじみ運動」推進に向けた自作の歌を披露した「写真」。



2013年7月に津和野町を襲った豪雨災害による津和野川と名賀川の復旧工事完了に伴う防災祈念式典が25日、同町名賀の白井地区防災拠点施設であり、関係者ら約150人が、被災者に思いをほせ、防災への誓いを新たにした。当時、津和野町の1時間雨量は91.5ミリ、1日雨量381ミリで、ともに町内観測史上最大を記録した。名賀地区を中心に洪水や土砂

などの甚大な津和野川、多事は今年9月式典では出どうをささげ長が「災害を政無線の整備災訓練をはじめ心でできる体制といけない」続けて白井地設に建てられの除幕式がある衛県知事が揮
松江署に上市内の今年一故件数は35同期比19件減は2人(同?た。
◆米子のペ展 ペン画家さん(54)米展が建物を個展が、松江の旧出雲ビルギャラリー出開かれてい着的建造物とな雲ビルのたた部まで表現しじめ、50点が心を集めてい30日まで。入森井さんは「蔵りすと」から山陰而県